日本鱗翅学会
中国支部会報
創刊号（1・2合併号）
2001年度 中国支部役員連絡先

支部長 渡邊一雄
〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1 広島大学総合科学部
Tel:0824-24-6531 Fax:0824-24-0757
E-mail:kwat@hiroshima-u.ac.jp

事務局幹事 本田計一
〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1 広島大学総合科学部
Tel:0824-24-6501 Fax:0824-24-0758
E-mail:honce@hiroshima-u.ac.jp

会計 渡部佐知子
〒739-0047 東広島市西条下見6-2-8-504
Tel:0824-24-8012 E-mail:sachi-gon@nifty.com

岡山県幹事 伊藤國彦
〒719-1112 総社市窟木111 岡山県立大学短大部
Tel:08669-4-2016

島根県幹事 淀江賢一郎
〒690-0862 松江市比津が丘2-1-7
Tel:0852-26-0186

鳥取県幹事 田村昭夫
〒682-0881 倉吉市宮川町2-74
Tel:0858-22-7707

広島県幹事 本田計一（同上）

山口県幹事 岡耿一郎
〒751-0877 下関市秋根東町2-8
Tel:0832-56-2726

＜表紙写真説明＞

1995年4月29日 岡山県苫田郡奥津町井坂（撮影 難波通孝）
タチツボスミレ(?)で吸蜜するギフチョウ・
支部長挨拶

鱗翅学会中国支部は1997年（平成9年）、第44回全国大会（広島市）の総会で設立が承認され、事務局、広島大学、支部長、渡辺一雄（評議員）とし、このときの記念講演（後述）を第1回例会とすることが決されました。このあと、開店休業（休暇）はひとえに支部長の負に帰します。これはもちろんと、新評議員となる木村氏一郎会員と鳩尾協会とこの第2回例会開催の道なる次第です。とにかく、できるだけ多くの会員にとって楽しく有意義であることを第一義に運営したいと考えます。まずはお詰め申し上げると共によろしくご協力の程お願い申し上げます。

あと2、3駄弁を弄させて下さい。ひとつは『学会』の意味です。設立時（昭和20年）からすると虫屋や昆虫研究者を取り巻く条件はずいぶん変わってしまいましたが、それでも少し変わってはありません。それは『虫が好き』そして『虫をまじめに捉えている』人々の集いであることです（なんでまるで何かの組織論はいえません）。学会は、特にこの第2点に関して、客観性の高いデータ、良質の知識、厳格な論理性を求めて、これに基づく相互批判を基礎に置くわけです。蝶も蛾もまだ判らないことはたくさんですので。また、自然をよく知る会員の知識、見識が有効に教育や行政に生かされるなら素晴らしいことです。プロもアマも区別なく成立した本学会はこの意味で21世紀に先駆の意義があります。昆虫学の関係者や出版の多い中で『鱗翅学会』の価値感はここのあたりもあるのではないでしょうか。

いまひとつはだれが中国支部かです。それは、虫の勉強が、また採集、観察活動が少しでも活性化されるならつきます。支部活動は活発な支部所属の会員は有形、無形にその利益を得ています。確かに全体として老齢化が否めない本学会も、支部活動を通じて世代間の交流や蒸発の再発が誘発できるなら最高です。大都市と遠地の地方の支部活動上の困難（交通、会員分布密度など）は本部評議員会でも強調しました。例会開催のための財政的援助も懸念です。これらを克服する工夫の中からまた生み出されるものであろうかと楽しみにして、とにかくスタートした次第です。

また、中国地方にはいくつもの歴史のある同好会がおり、中国5県を中心とする蝶の一泊採集会（この会では蛾は蛾の一種とされ、半飲み会です）も20年の歴史をつけました。これらよりよい相互交流も図れるなら互いに得るとところ大と考えます。会員のご協力をお願い申し上げる次第です（渡辺一雄）。

第2回日本鱗翅学会中国支部例会議事録

平成12年12月2日（土）
広島市ホテルチューリッヒ

総会次第
1. 支部長報告（渡辺一雄）：例会を開催するのが遅くなったことをお詫びいたします。

2. 会計報告（木村一郎）
1997年11月22－23日に開催されました第44回日本鱗翅学会大会での収支について
収入：本部補助（550,000円）、参加者からの徴収額（1,085,000円）を合わせ、計1,645,000円
支出：印刷費（238,610円）、運輸料（242,030円）、学生代表（240,000円）、その他（713,084円）を合わせ、計1,433,724円、差引残高 211,276円となり、1998年2月5日に郵便貯金として預金しました。
その後、鱗翅学会本部より支給された支部運営費30,000円（1998－2000年分）と利息を加え、残高は241,760円となりました。第2回例会で会議会費など使用料として20,000円を支出しましたので、2000年12月3日現在での残高は221,760円となりました。尚、第2回例会で参加者から徴収致しました宴会（7,000円/人）は、皆様のご懇親会費に充てておりますので、これについての余剰金は有りません。

<table>
<thead>
<tr>
<th>金額</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>収入の部</td>
<td>241,760円 211,276円 30,000円 10,000円×3年分（1998－2000年） 484円 利息</td>
</tr>
<tr>
<td>支出の部</td>
<td>20,000円 20,000円 2000年12月3日現在</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1
3. 議事
1）今後の運営について
   ○支部例会の開催
      年1回、5県もちまわりで開催することとした。
   ○支部規約の作成
      原案を1年以内に事務局で作成することとした。
2）支部長、事務局、事務局幹事、会計の選任方法、任期など
   ○選任方法
      支部長は評議員3人の中から互選する。
      支部長の至近の位置に事務局を設け、近くの会員が事務局幹事をすることとする。
   ○支部長の任期
      3年（評議員任期に該当）とし、今回は2001－2003年とする。
   ○支部長の職務内容
      支部のとりまとめ。
   ○会計年度
      1月1日から12月31日までとする。

【次期支部運営体制】
支部長：渡辺一雄（2001年度）
         本田計一（2002－2003年度）
事務局：広島大学
事務局幹事：本田計一
会計：渡部佐知子

3）各県幹事（支部例会担当）の選任、任期
   ○選任方法
      例会で推薦され、承認された人。
   ○任期
      支部例会で報告することとし、各県にまかせる。

4）支部例会の運営のアウトライン
   ○開催時期
      各県にまかせる。
   ○開催順序
      左まわりとする（広島県→岡山県→鳥取県→島根県→山口県）。

【例会開催県と幹事】
各県幹事は以下とする。
広島県：本田計一、岡山県：伊藤國彦、鳥取県：田村昭夫、島根県：渋江賢一郎、山口県：岡発一郎

5）その他
   ○シンポジウム「ウスイロヒヨウモンモドキの衰亡と保護」（12月9日、松江市）につき、日本鱗翅学会中国支部後援することを了承した（渡辺支部長）。
   ○支部運営にかかわる予算については、前年度に計画書を本部に提出すれば100万円を限度として本部から支出可能であることにつき報告があった（本田次期評議員）。
S3. 中国地方の蝶分布の特性

白水 隆

中国地方は、地理的位置や、北海道（東北地方）の影響にも関わらず、少ない。また、山脈もないので、その飛行は比較的容易なとされている人が多い。しかし、生物地理学的なみると、中国地方の飛行は普通で、日本の飛行の理解のために最も重要な地域の一つと私は考えている。その理由は、

① 日本と中国地方に分布の幅が広く分布する点（東北・遠東・関東・九州）
② 産卵・産卵・産卵・産卵・九州の産卵の幅が存在しない（例）
③ 産卵・産卵・産卵・産卵・九州の産卵の幅が存在しない（例）

問題はどのようにして解けようか。分布の分布は普遍的な条件によって説明される要素が多いが、地域を広くとった場合に、地学的条件が大きく関係してくる。

中国地方の飛行の特性は地学的条件の実用が大切に考えられる。日本は中国地方において最も遠くない大陸（朝鮮半島）と接近しているが、中国地方の飛行の特性の原因をこれ以上に求めることは難しいと思われる。

但し、日本の分布は変動深いが、この問題については考えるべきである。
日本国内で、中国地方の一部を除き、他の地方にはあるチョウは、たしか3種だけだったと思う。このような分布を持つチョウは、どんぐりのあるか、拾い出してみると、その数は意外に少ない。思いつくのはケルギマエフエダチョウ（香港ではツルウメモドキで観察された）、コンゴウミドリヨリ（オーラシア種、食害イネ科）、タイリュウシプロクチバ（食害イネ科）バニガ、たとえば兵庫県まで分布するだけである。これら3種は国内では朝鮮半島に分布する。

おそらく、中国地方を背景とする生物地理学的要素は、朝鮮半島から対馬を経て九州北部、中国地方、四国北部など、瀬戸内海を取り巻く一帯を分布上の根とする、内地の極温帯葉草林要素であるかと思われる。この要素に属する種の内で、室戸大麻には産せず九州、四国、紀伊半島の南端部には分布しない。

このような分布型をもつ種はかなりの数にのぼるが、日本国内の分布がかなり東北地方にひろがり、かつかなり偏在的に分布する種もあるので、そのすべてを中国ないし瀬戸内との強い関係でとらえることのできない場合もある。またこれらの種のなかには、分布が全体的に局地化している種、あるいは中国、瀬戸内海域の東側で分布が不連続となり、局地的な産出記録しか公表されていない種も多い。

この要素を代表する例として、嶋浦のもともと伝説しているオオシモフリズメの分布区（図1、杉、1979に追加）を挙げる。この種の食草はウメ、モモ、スモモなどであるから、食性は分布の規定要因ではない、同じくサクラその他のバラ科の植物を食草とするウスバツバはの分布はほとんどオオシモフリズメと変わらない。南房は12年間の降雨量で説明できると思われる。

このような分布型は、むしろ植物学の分野でも認められている。アキレリ、ノグリミなどを含む7種の築堤の分布平面図を重ねて得られる等分布度曲線（図2、福田、1976）をみると、瀬戸内海を核とする地域が分布の中心となっている。今年、ウサオリガの食草がアキレリであることが観察された（松浦、上田、1997）。この付近の分布型は、やはり朝鮮、対馬から瀬戸内海を経て、紀伊半島西岸に及ぶ（図4）。ウサオリガは、日本全国に分布するが、伊豆一那須エリア地域の広域種として保有されているが、分布の種としては、とりわけアキレリを核とする食草としてはキリヨミモミエダチョウがあり、同じような分布型をもつ、先年対馬でアキレリを一通り食草とするオオガラハモドキの卵虫多数が観察された日本の国内では対馬以西をとされた種はかなりあるが、基本的には同じ要素に属していよう。

アジアホソバスミのことに触れてもおきたい。この種の食草は不明。瀬戸内を核とする分布型は、図示した通り（図3）。ただし北海道、東北に記録があり著しい不連続を示し、現在東南アジアの広域サービスペンネスの亜種となっているが、国内の分布型から見ると、暖温帯種のような。以前の和名のスヒトウチホトホ巴斯ミのこの種にあらわし。

中国地方には、有名な石灰岩地帯があり、オオキタボツバ、エチゴバガタヨトウなどツゲに固着するチョウの現状では、ヤクヒクラソヨトウ、イセギリガが見られる。ホソバミソソリカンチョウ、近隣地域では石灰岩地帯で非常に多くの種類が共にいる。しかし全国的な大勢は石灰岩との関係を否定しない。先年山頂県で発見されたスソオミガレアツバ、は同様の共通種であるが、1例だけなので、正しい評価ができない。それに関係では、未定の類似種の2例も見られ、これは石灰岩地帯と関係がありそうである。

最後に岩手県関連で採れるジロソマノロックモンの分布も注目されるところである。ベニモカガカシジミの分布域とは重なることが指摘されている。しかし属 Craniophora の基本食性はモクセイ科であってクロウメモドキ科ではない。この種は、さらに長野県と北海道
参考：対馬特産とされる種—タイワンクチバタスズメ、フサオシャチホコ、ツシマクロモンシシャチホコ、チョウセンネゴシャチホコ、トビジャチホコ、キシタオババクドガ、ツシマゴマケンノン、ツシマキシタヨトウ、対馬／鹿児内／ツシマオシロヒメシャク、対馬／鹿児内／近畿地方まで—シノノメシャチホコ、コマルモンシロガ、ウズアオリンガ、キユウミミシナガシャク。対馬／鹿児内／中部地方まで—コシロオビドクガ、対馬／鹿児内／不連続的に中部以北まで—チカゾツマオシマキシャチホコ、アジアオホバスズメ（＝セトウチホバスズメ）、フシキシタバ。対馬に記録を欠くがほぼ同様な分布型をしめすと思われる種—ナカコカンガキバ、ウズマダラカンヘ。
岡山県苫田郡上斎原村恩原高原は、中国地方にいくつかある本種の産地のうちで、あまりにも有名である。恩原高原の特徴は、何といってもカシワ林と湿地、そして草原である。この草原に今回問題としてとりあげたウスイロヒョウモンモドキが生息しており、カシワ林に生息するハヤシミドリシジミと共に恩原高原を代表する蝶になっている。

毎年、7月上旬〜中旬にかけての発生期には全国から多くの採集者が訪れている。毎年採集される個体数の詳しいデータはないが、かなりの数と推測される。

1996年10月、地元の上斎原村振興公社からウスイロヒョウモンモドキについて説明を求められたので、国内の分布や生態について話した。その後、1997年7月16日にこの蝶を保護するための看板を設置したいので、その説明文と保護の方法についての助言を求められた。送付された内容は、以下のようであった。

（お知らせ）
当村では、動・植物および昆虫の保護に努力しています。
特に数の激減している種類についての採取目的での入山はご遠慮して頂きますようご協力をよろしくお願い致します。

上斎原村

野生生物の保護については、こちらから問題点を掘り起こして提起することも大切なことであるが、地元側から助言を求められたとき、これに対してどのようにきちんと対処することができるかに、学会や地方同好会の存在意義が問われていると思う。本種は、オオウラギンヒョウモンやヒョウモンモドキと同様に減少の一途をたどっている種と思われる。広島県下ではすでに絶滅しており、他産地の生息状況からみて、もしかすると恩原高原は日本で最後に残る産地かも知れない。これを機会に本種をめぐる諸問題について討論して頂きたく思う。

参考として恩原高原の現状と問題点を簡単にあがる整理しておく。

（現状）
1）発生地は何か所かあるが最も多い場所は広くまとまった草原で、毎年牧草の草刈が行われている。その他の発生地は個体数が少ない。

2）発生期の7月上旬〜中旬にかけて、毎年県内外から多くの採集者が訪れ、のの発生初期から交尾済みのまで連続的に採集圧がかかっている。
3）毎年採集されているにもかかわらず発生し続けていることは、採集によって簡単には絶滅しないことを裏付けている。

4）地元から保護の看板を立てるため、保護の方法と看板の説明文に対して助言を求められている。1998年7月の発生期から実施の予定である。

（問題点と考え方）

1）地元からの助言の要請に対して今後誰がどのように対処するのか？
（案）日本鱗翅学会内自然保護委員会の中国地区自然保護委員（渡邉一雄氏）を中心として中国地区調査員を数名選任し、中国地区自然保護委員会を結成して対処する。

2）発生の状況がある程度良好な今から保護対策をとるか？それとも、もっと危機的な状況になってから行うか？
（案）地元から発信された要請に対して、私達はいくらかの知識を持つものとして助言をするべきと思う。保護の対策は早いに越したことはないと考え、地元の要望通りに1998年の発生期からこれを行う。

3）保護の方法について
（案）全面採集禁止ではなく、あくまで生息環境を残すことに主眼を置き、その中に生息する本種のように捕獲圧が相当度かかっていると推測される種について一定の採集を自発する規制をする。具体的には、ある発生地を決めて7月1日～7月20日まで本種の採集を目的としての入山を禁止する。

4）牧草の草刈をしなくなった場合の対策について。
（案）草刈をする範囲が広いので場合によっては県や国に対しての働きかけが必要になるかもしれない。

（以上、文責 難波通孝）

以上の難波氏の問題提起に対して、淀江賢一郎氏（中国）に、三瓶山（島根県）における本種の過去、現在の状況と見通しについて、また、小路嘉明氏（近畿）に、本種の現在までの各地における産出状況と今後の見通しについてコメントしていただき、時間の許す範囲で討論を行う。

（以上、文責 プログラム委員会、渡邉一雄）
1. ギフチョウの分布論——ミトコンドリア ND5 遺伝子の一塩基置換（スナップス）
とその意味
渡辺 一雄

地理的変異の探求は、昆虫採集の大きな喜びの一つである。
中国地方のギフチョウには、全体としてみれば明らかな斑紋上の変異も認められる。また、タイリンオアイ（山口）、サンヨウアオイ（山口、広島、鳥取）、ミヤコアオイ（宮城）、サンインオアイ（鳥取）と地域ごとにその主要食草は異なており、
しかもこれら 5 種は、それぞれギフチョウの食草好性の観点からきわめて興味深い特性を有するものである。さらに、
地域ごとの発生時期の問題、移動性の大小の問題なども注目に値する。

このようにみると、解離されなければならない最も重要な問題の一つは、ギフチョウが、山城ごとにどの程度の大きさの相互交雑集団（メタ個体群）を構成しているのかである。この知見を基礎にして、メタ個体群同士の交流はどの程度あるのか、そして各メタ個体群は、それぞれギフチョウの形態的、生理的特性とどの程度対応しているのかを問題となる。

生命研究施設の大澤本三氏を中心にして設計されたミトコンドリア ND5 遺伝子の塩基配列によるオサムの系統解析研究は、多くの知見をもたらしたが、この遺伝子の塩基配列は同種個体群でも、1000 塩基あたり約 2 から 3 個の塩基置換を個体変異として保有している。これを塩基配列スナップス（SNIPS: Single Nucleotide Polymorphisms）という。

ミトコンドリアは精子から伝わりず、母性伝達と考えられている。われわれは一匹の蜂が産卵した卵はスナップスを共有していることを示した。したがって、相互交雑個体群はこのスナップス共有度によって知ることができる。これを手がかりにギフチョウの個体群解析を行い、入力のデータが得られていたのでそのあらましを報告する。

分布域の山口県から北東端の秋田県におよぶ 27 産地 90 個体のギフチョウのミトコンドリア ND5 遺伝子 782 塩基対の塩基配列の中に認められた 12 個の一塩基置換はそれぞれ興味深い同一系統の分布を示した。

すなわち、第 700 番目の塩基に関しては、京都市付近を境に、西側に 700A（アデニン）型（西日本個体群）、北東側に 700G（グアニン）型（東日本個体群）が認められた。この変異型は、関東地方個体群（丹沢・富士川個体群）を例外（700A 型）として、残りの個体群につき一の例外も認められなかった。①西日本個体群の中にさらに一つ、北東型個体群の中には二つの、複数の産地で有される塩基配列が認められた。②この他に別個の区別塩基結合が 5 産地で認められた。③すべての塩基配列でアミノ酸置換は認められなかった。②北東型個体群の分布圏は、ヒメカンアオイ・コサシカンアオイ（ヒメカンアオイ節 Section Bicornes）を基本食草とするギフチョウ分布圏に一致し、西日本個体群はミヤコアオイ（ミヤコアオイ節 Section Aschidasarum）を基本食草とするギフチョウ分布圏に一致する。また、関東地方個体群とは、かねてその食草と形態の特異性が指摘されているランヨウアオイを基本食草とする個体群に他ならない。

ND5 遺伝子の塩基配列は、食草が異なるギフチョウ個体群に対応するマーカーとできる可能性が指摘できる。

2. 鱗粉一個で色素の同定は可能か
中井 衛

鱗粉は 1 個で色素の化学構造を決定できるかどうか、その可能性について検討した。鱗粉は 1 個の細胞に由来し、一種類の色で構成され、二種類以上の色は含まれていないとされる。周知のように、鱗粉の色は色素に起因する場合と構造色と呼ばれる発色で異なりされる。今回、材料にエゾスジグロシチョウを用いて白色鱗粉の色素の同定を試みた。同色素はプリミシ系の一つのロイコブリテンであることを既に知られている。まず、この既知色素について、次に検索分析機器を用いて測定・解析を行った。その前に、1 個の鱗粉で測定する意義について触れておきたい。

①溶媒に溶解させることなくそのまま分析できる、難溶性色素も可能である。
②サンプル量が極微量で、標本を破壊せずに測るのので、貴重な標本の場合には好都合である。
③Cover scale, Basal scale など鱗粉の区分、位置別に分析できる。
④スジソソヤマキチョウの赤鱗など微小な斑紋の分析に役立つ。また、片翅 1 枚で全彩色が解明できる。
⑤1 個の鱗粉は 1 種類の色素から成るのでかどうか。
⑥ロイコブリンの色彩顕微の表面コーティング物質の解明など。

さて、最初に、イオントラップ型質量分析計の測定結果では、MS/MS モードを使用すれば、1 個の鱗粉でロイコブリテンであることは推定可能であった。引き続き、迅速に、正確に分析できるようにノウハウを確立していく予定である。
3. 韓国のチョウ雑記

韓国は朝鮮半島の南に位置し、東アジア全体の生物地理を考える上でも非常に重要な地域である。このことは、チョウの世界でも同様である。韓国は簡単に調査にいくだけに、これまで国内のチョウしか見てこなかった愛好家にとっては、新たな観点を持つきっかけともなる地域といえる。この雑記では、比較的容易にチョウの観察ができるところを2ヶ所紹介する。

まず、ソフィルスの愛好家がよく訪れる桂芳山である。桂芳山は広域市内にあり、その景観は美しく、訪れる人をときめかせる。私は桂芳山でチョウの観察をすることを考えているので、ここに紹介したい。桂芳山は山頂に位置しており、山頂からの眺めは絶景である。

もう一つの観察地は、韓国の江原道にある特別保護地区の美しさがある。この地区は美しく、チョウの観察が可能である。私はこの地区でチョウの観察をすることを考えていて、この地区は美しく、チョウの観察が可能である。
第2回 日本鱗翅学会中国支部例会 参加者名簿

日時：2000年12月2日（土） 午後3時～8時
場所：ホテルチューリヒ（広島市東区光町2丁目6-5）

<table>
<thead>
<tr>
<th>氏名</th>
<th>会員番号</th>
<th>住所</th>
<th>電話</th>
<th>興味の対象</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>伊藤 国彦</td>
<td>3544</td>
<td>719-1112 槇社市薄木111 岡山県立大学短大部</td>
<td>0866-4-2016</td>
<td>蝶の季節型</td>
</tr>
<tr>
<td>萩原 努</td>
<td>3332</td>
<td>739-1201 高田郡原町坂239</td>
<td>0826-46-2304</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>藤原 克彦</td>
<td>4658</td>
<td>753-0077 山口市熊野町3-6-102</td>
<td>蝶の季節型</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>岡 豊一郎</td>
<td>2518</td>
<td>751-0877 下関市秋根町2-8</td>
<td>0832-56-2726</td>
<td>国内の蛾の分布</td>
</tr>
<tr>
<td>金尾 敏</td>
<td>4844</td>
<td>730-0001 広島市中区白島北町18-3-1307</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>藤田 博</td>
<td>4673</td>
<td>736-0085 広島市安芸区矢野西4-28-6</td>
<td>082-888-5143</td>
<td>ギフチョウの生活史</td>
</tr>
<tr>
<td>神道 健司</td>
<td>3703</td>
<td>737-0113 呉市広横路4-4-32</td>
<td>0823-74-2680</td>
<td>アゲハ捷科、カラマキ科</td>
</tr>
<tr>
<td>佐藤 和也</td>
<td>3513</td>
<td>759-0207 宇部市厚南7区平和町</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>澤野 郎</td>
<td>1142</td>
<td>739-2115 東広島市高屋高美が丘8-20-8</td>
<td>0824-34-8966</td>
<td>蝶（特に分布調査）</td>
</tr>
<tr>
<td>武次 房江</td>
<td>3884</td>
<td>751-0806 下関市一の宮町1-12-6</td>
<td>0832-56-3443</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>中井 衛</td>
<td>4700</td>
<td>755-0151 宇部市西岐波大沢西</td>
<td>0836-51-2555</td>
<td>蝶の観察</td>
</tr>
<tr>
<td>高村 慎吾</td>
<td>67</td>
<td>727-0013 広野市西本町1-7-7</td>
<td>08247-2-3234</td>
<td>地域の葉、蝶類相</td>
</tr>
<tr>
<td>難波 通孝</td>
<td>2531</td>
<td>709-0631 岡山市東平島1595-87</td>
<td>086-297-4122</td>
<td>蝶の生態と遺伝環境、その保全</td>
</tr>
<tr>
<td>二村 正之</td>
<td>4794</td>
<td>691-0001 平田市平田町1 平田高等学校生物</td>
<td>0853-62-2117</td>
<td>蝶の斑紋形成、収穫</td>
</tr>
<tr>
<td>布川 和子</td>
<td>175</td>
<td>752-0967 下関市長府宮ノ内町6-11</td>
<td>0832-50-2568</td>
<td>蝶、環境の変化による種の変化</td>
</tr>
<tr>
<td>本田 計一</td>
<td>1301</td>
<td>739-8521 東広島市鏡山1-7-1広島大学総合科学部</td>
<td>0824-24-6501</td>
<td>アゲハとマダラとタテハ</td>
</tr>
<tr>
<td>浦辺 雄</td>
<td>458</td>
<td>739-8521 東広島市鏡山1-7-1広島大学総合科学部</td>
<td>0824-24-6521</td>
<td>蝶と蛾の探集、翅脈と斑紋、DNA</td>
</tr>
<tr>
<td>浦辺 佐知子</td>
<td>4830</td>
<td>739-0047 東広島市西条下見6-2-8-504</td>
<td>0824-24-8012</td>
<td>蝶類（はじめたばかり）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 今回参加されなかった方

<table>
<thead>
<tr>
<th>氏名</th>
<th>会員番号</th>
<th>住所</th>
<th>電話</th>
<th>興味の対象</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>田辺 富士郎</td>
<td>27</td>
<td>737-0124 呉市広末新開1-2-27</td>
<td>0823-73-0988</td>
<td>蝶類だったが近隣はやっていない</td>
</tr>
<tr>
<td>関野 幹男</td>
<td>28</td>
<td>701-1463 岡山市足守1806</td>
<td>086-295-0308</td>
<td>溫暖化に伴う昆布昆虫（サギアゲハ、インガキチョウ、ゴマチョウなど）</td>
</tr>
<tr>
<td>矢野 宏二</td>
<td>161</td>
<td>753-0061 山口市朝倉町11-23</td>
<td>083-925-8662</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>矢野 明</td>
<td>682</td>
<td>718-0011 新市新見989</td>
<td>0867-72-4273</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>畠川 博</td>
<td>1461</td>
<td>737-0033 呉市寺本町13-13</td>
<td>0823-21-1823</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>林 直哉</td>
<td>1814</td>
<td>747-0103 防府市大字和原112</td>
<td>0835-36-0544</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>西川 良平</td>
<td>1956</td>
<td>751-0825 下関市石神町8-40</td>
<td>0832-32-7150</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>岡村 一郎</td>
<td>2239</td>
<td>690-0087 松江市砂子町205-13</td>
<td>0825-21-6072</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>岡野 貴司</td>
<td>2294</td>
<td>710-1312 吉備郡真原町廻田847-5</td>
<td>0866-98-7247</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>木村 健</td>
<td>2399</td>
<td>702-0834 岡山市福備区町2-22</td>
<td>0826-26-3480</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>淀江 賢一郎</td>
<td>2553</td>
<td>690-0882 松江市比津が丘2-1-7</td>
<td>0852-26-0188</td>
<td>評議員（今回委任状提出）</td>
</tr>
<tr>
<td>田中 正文</td>
<td>2619</td>
<td>754-0837 山口市敦賀秋津島2615</td>
<td>083-987-2610</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>木村 明士</td>
<td>2751</td>
<td>709-4312 勝田郡勝町黒土101-1</td>
<td>0868-38-5200</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>田村 昭夫</td>
<td>2924</td>
<td>682-0881 倉吉市宮川町2-74</td>
<td>0858-22-7707</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>松田 裕一</td>
<td>2925</td>
<td>682-0821 倉吉市福守町946</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>鳥居 守</td>
<td>2949</td>
<td>754-0002 吉備郡小郡町下尾崎37-44</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宇野 弘之</td>
<td>3476</td>
<td>710-0007 倉敷市浅原836</td>
<td>086-422-6977</td>
<td>蝶</td>
</tr>
<tr>
<td>三熊 彦一</td>
<td>3563</td>
<td>704-8116 岡山市西大寺中2-22-25</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>安田 正利</td>
<td>3666</td>
<td>758-0000 倉敷市松本市場</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>英 裕人</td>
<td>3665</td>
<td>680-0804 鳥取市田島688-2</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>青木 昭太郎</td>
<td>3770</td>
<td>738-0514 佐賀郡栗東町杉並台17-12</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>高田 隆民</td>
<td>3907</td>
<td>721-0957 福山市児島町南丘399-46</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>馬場 宏教</td>
<td>3949</td>
<td>683-0006 米子市車尾1500</td>
<td>0859-23-0987</td>
<td>LEPI全般</td>
</tr>
<tr>
<td>三宅 優夫</td>
<td>3959</td>
<td>706-0131 福山市東陽台2-19-192</td>
<td>0863-71-1965</td>
<td>蝶の生態、文獻</td>
</tr>
<tr>
<td>坂本 充</td>
<td>3997</td>
<td>732-0032 広島市東区上温品3-24-16</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>大木 孝行</td>
<td>4022</td>
<td>744-0042 下松市切山333-4</td>
<td>蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>永田 浩史</td>
<td>4067</td>
<td>709-0002 津山市上河原217-4</td>
<td>0868-23-0192</td>
<td>中南米のセリセリチョウの分類</td>
</tr>
<tr>
<td>姓</td>
<td>名</td>
<td>電話番号</td>
<td>地址</td>
<td>注記</td>
</tr>
<tr>
<td>----------</td>
<td>------</td>
<td>----------</td>
<td>------</td>
<td>------</td>
</tr>
<tr>
<td>大屋</td>
<td>厚夫</td>
<td>701-0135</td>
<td>岡山市東花見229-1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>吉田</td>
<td>義男</td>
<td>706-0304</td>
<td>玉野市番地2810-1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>郷原</td>
<td>敏史</td>
<td>704-8173</td>
<td>岡山市可久2-6-5-403</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>吉川</td>
<td>直樹</td>
<td>730-0825</td>
<td>広島市中区光南3-8-10 090-7122-2710</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>石井</td>
<td>正光</td>
<td>713-8113</td>
<td>倉敷市玉島八島600-1 C-202 086-525-5709 昆虫全般（主に甲虫・蝶）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>広瀬</td>
<td>正明</td>
<td>710-0031</td>
<td>倉敷市有城498-5</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>和泉</td>
<td>浩行</td>
<td>690-0887</td>
<td>松江市殿町297</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>笠谷</td>
<td>慎一</td>
<td>690-0115</td>
<td>松江市上乃木7-1-9 0852-27-5697 蝶の分布</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>西由</td>
<td>正九郎</td>
<td>699-4715</td>
<td>邑智郡邑智町石原269</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>日暮</td>
<td>卓志</td>
<td>680-0941</td>
<td>鳥取市湖山町北2-108 衣楽苑</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>河邊</td>
<td>幸一</td>
<td>710-0061</td>
<td>倉敷市浜ノ茶屋2-3-33 086-440-1160 岡山の蝶、保護</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>曽我部</td>
<td>知行</td>
<td>733-0812</td>
<td>広島市西区百合本町3-13-16 (株)中国環境指導センター</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>相良</td>
<td>伊知郎</td>
<td>732-0062</td>
<td>広島市東区牛田早稲田2-19-45-706</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宇川</td>
<td>和夫</td>
<td>690-8504</td>
<td>松江市西川津町1086 島根大学生物資源科学部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>伊藤</td>
<td>裕子</td>
<td>758-0011</td>
<td>萩市大字鶴東554-12 0838-26-7155 蝶類</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>難波</td>
<td>圭吾</td>
<td>719-1143</td>
<td>総社市上原349-2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>中坪</td>
<td>孝之</td>
<td>739-0048</td>
<td>東広島市鏡山1-7-1 広島大学総合科学部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>富山</td>
<td>哲夫</td>
<td>700-0822</td>
<td>岡山市長町1丁目6-36 086-231-3429</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>沖本</td>
<td>暢敬</td>
<td>742-2102</td>
<td>大島郡大島町字東三浦742-1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>池田</td>
<td>匡</td>
<td>683-0017</td>
<td>米子市宗像451-13</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>富賀見</td>
<td>勉</td>
<td>758-0000</td>
<td>萩市前小畑区4830-5</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>清水池</td>
<td>有治</td>
<td>739-1751</td>
<td>広島市安佐北区深川3-9-7</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>難波</td>
<td>正幸</td>
<td>739-0006</td>
<td>東広島市西条上市町8-23</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>三時</td>
<td>弘久</td>
<td>747-0011</td>
<td>防府市岸津2-14-20</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>山中</td>
<td>明</td>
<td>753-0841</td>
<td>山口市大字吉田1877-1 山口大学理学部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>野津</td>
<td>幸夫</td>
<td>690-1101</td>
<td>松江市本庄町425 0852-34-0595 広島、島根県産蝶類の分布調査 責任種の保護の問題</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>上田</td>
<td>丞</td>
<td>755-0082</td>
<td>宇部市鎮の島町7-28 ムネシカビル102</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>細木</td>
<td>聖徳</td>
<td>699-1312</td>
<td>大原郡木次町大字方271番地13</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>竹内</td>
<td>透</td>
<td>739-0653</td>
<td>大竹市黒川3-3-1-301</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>案本</td>
<td>英之</td>
<td>683-0805</td>
<td>米子市西福原4-7-50 0859-34-9604</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>三島</td>
<td>昭一</td>
<td>691-0013</td>
<td>平田市美談町428-1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>稲村</td>
<td>恭悦</td>
<td>690-0834</td>
<td>松江市朝倉町652 0852-39-0048 蝶</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>稲村</td>
<td>恭悦</td>
<td>690-0834</td>
<td>松江市朝倉町652</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>鳥居</td>
<td>俊孝</td>
<td>685-8512</td>
<td>隈岐郡西郷町有木尼寺原1 成義高校 08512-2-6414 隈岐の蝶類全般について広く浅く、ルーミスにこだわる</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

○：2001年度からの新評議員  
◎：2001年度からの再評議員  
△：2000年度で任期切れの評議員  
◇：元評議員

なお、中部支部は、会員数81名のため評議員定員は3名です。
日本鱗翅学会中国支部規約（案）

第1章 総則

第1条 本支部は日本鱗翅学会中国支部と称する。

第2条 本支部は支部会員相互の交流を図り、鱗翅目昆虫についての理解を広めることを目的とする。

第3条 本支部に事務局を置き、事務局を本支部の所在地とする。

第4条 本支部はその目的を達成するために次の事業を行う。
   （1）年1回例会（総会を含む）を開催する。
   （2）年1回日本鱗翅学会中国支部会報を発行する。
   （3）その他、適当な行事を行う。

第2章 支部会員

第5条 本支部は中国地区（広島・岡山・鳥取・島根・山口の各県）に在住する日本鱗翅学会会員をもって組織する。

第6条 本支部の会員は住所（連絡先）、氏名などの変更のあるときは速やかに事務局に通知するものとする。

第3章 役員

第7条 本支部に次の役員を置く。事務局は支部長、事務局幹事、会計で構成する。
   （1）支部長 1名
   （2）事務局幹事 1名
   （3）幹事 4名
   （4）会計 1名

第8条 支部長は日本鱗翅学会中国地区選出の評議員の中から選出し、総会において承認を得るものとする。
幹事（事務局幹事を含む）は第5条の各県の会員の中から推薦され（1名ずつ選出、自薦を含む）、総会において承認を得るものとする。選出方法は各県の裁量による。
事務局幹事は原則として支部長在籍の県から選出された幹事がこれを務める。
会計は支部長が会員の中から推薦し、総会において承認を得るものとする。

第9条 支部長は本支部を代表し、支部会務を統括する。支部長に事故があった場合、支部会員の資格を失った場合は、当該年度内の残任期間を除き他の評議員が支部長の職務を代行する。この場合総会の承認を必要としない。
事務局幹事は支部長を補佐し、支部運営上必要な業務を行う。
幹事（事務局幹事を含む）は例会の開催、会報の発行、その他支部運営に必要な業務の遂行に協力する。
会計は支部資産を掌握し、出納事務を行う。

第10条 支部長の任期は原則3年とし、再任を認めない。
事務局幹事の任期は原則3年とし、再任を認めない。
幹事の任期は1年とし、再任を妨げない。
会計の任期は原則3年とし、再任を認めない。

第4章 例会、総会および会報
（例会の内容）
第11条 例会は原則として支部会員による研究発表、調査・採集報告などで主に構成され、必ず総会を含むものとする。

（開催時期・開催地）
第12条 例会は各会計年度内に少なくとも一回おこなうものとする。
　例会は広島県、岡山県、鳥取県、島根県、山口県の順で開催するものとする。

（例会の運営）
第13条 例会は前条開催地の幹事が主催する。

（総会の運営）
第14条 総会は支部会員をもって構成する。
　総会の運営は事務局が担当し、議長は支部長が務める。ただし、他の評議員または幹事による代行も可とする。
　総会の議決は出席した支部会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

（会報）
第15条 会報は例会を主催した幹事が草稿を作成、編集する。
　会報は事務局が発行し、例会開催翌年の6月末までに支部会員全員に配布する。

第5章 会 計

（経費）
第16条 本支部の経費は次に掲げるものをもってこれに当てる。
　（1）支部運営費 10,000 円／年
　（2）本部補助金
　（3）寄付金、その他

（資産の管理）
第17条 本支部の資産は事務局が管理する。

（決算）
第18条 本支部の会計状態及び収支決算はこれを総会で報告し、承認を得なければならない。

（会計年度）
第19条 本支部の会計年度は毎年1月1日に始まり、同年12月31日に終わる。

第6章 補 則

（会則の変更）
第20条 本支部の会則を変更する場合は、総会の議決を経なければならない。

（委任規定）
第21条 この規約に定めるもののほか、本支部の運営に関して必要な事項が発生した場合は、評議員及び幹事との協議に基づき、事務局がこれを定めることができる。ただし、その事項は次回総会において承認を得なければならない。

附 則
この規約は、平成13年＊＊月＊＊日から実施する。